

そらんぽへ行こう

問 博物館・プラネタリウム (TEL) 355-2700 (FAX) 355-2704

にゃんにゃん

猫猫収蔵品展を開催しています

秋の特別展「猫猫はくぶつかん」にちなみ、猫をモチーフにした当館の所蔵品を、2期に分けて紹介しています。

10月18日(日)までのⅠ期では、幕末から明治時代にかけて活躍した浮世絵師、楊州周延の大判錦絵で構成された木版画集「あ川満」の中から「裁縫」と「愛猫」を展示しています。いずれも猫と人の間に流れる心安らかな雰囲気を感じられます。

また「宮尾陶器のノベルティ」では、精緻な写実的表現に加えて、デフォルメや擬人化などを加えた遊び心あるデザインを見ることが



猫猫収蔵品展ポスターより

ができます。

さらに、伊藤豊助「遊び猫」や「色絵草花文招き猫掛花入」を通して、近代萬古焼の名工が生み出した、精密な立体造形もあわせてご覧ください。

これらの作品を通じて、猫に寄せる人々のまなざしに触れ、特別展「猫猫はくぶつかん」をより深くお楽しみください。

10月20日(火)～11月23日(祝)のⅡ期では、一部を除いてほとんどの作品が入れ替わります。Ⅰ期、Ⅱ期それぞれの魅力をぜひご覧ください。

文化財さんぽ

問 文化課 (TEL) 354-8238 (FAX) 354-4873

富田一色の架け橋となった 平治郎橋

かつて富洲原地区は南北に流れる堀川によって東西に分かれていました。堀川には北側に海運橋がありましたが、富田一色南部の人々が富田停車場（現在のJR富田駅）へ行くためには、海運橋まで迂回しなければなりませんでした。

実業家の伊藤平治郎は富田一色の人々の、交通の不便さを解消しようと、富田に通じる橋の新設を決意しました。しかし、橋の新設には多額の費用がかかる上、海運橋近くの商店を訪れる客が減るのではないかと懸念もあり、なかなか計画は進みませんでした。



平治郎橋（西詰）

苦難が続きましたが、明治41（1908）年、ついに橋が完成しました。その偉業を称え「平治郎橋」と名付けられた橋は現在3代目で、歩道スペースが設けられ、片側一車線となっています。

西側へ橋を渡ると大型商業施設があり、さらにJR富田駅に向かってしばらく西へ進むと国登録有形文化財建造物である「旧東洋紡績株式会社富田工場原綿倉庫」も見られます。ぜひ伊藤平治郎の思いに触れながら、橋を渡ってみてはいかがでしょうか。